

熊本からの報告

⑤ 地方政治クリエイト 伊藤秀昭

長引く余震、見通せない不安

友よ、負けるな

「熊本地震」は発災後一週間が過ぎ、余震が続く21日に、朝から激しい雨が降る中で懸命に救援に走りまわる熊本の町職・市職らから、現地状況を伝える生々しいメールや写真が送られてきた。

吉村町議からメール届く

■2回目の地震で 後、体が下の方から突き上げられた感じで30秒程揺れたと思います。初めて体験する驚きの揺れでした。すへ停電して真っ暗になり家の中がぐちゃぐちゃになっていました。メガネとスマホを探して、それからすべ

役場に行き、次々に来られる避難住民の受け入れに役場駐車場が対応しました。15日の早朝、避難された方々を自衛隊車両で近くの総合体育館に移動することができました。16日の午前1時25分ごろ、2回目の地震があり、益城町は1回目の地震で家屋にダメージを受けている上に、とどめを打たれた感で被害が一挙に広がりました」と吉村議員。

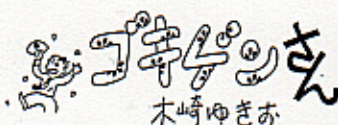
「今、一番困っていることはなんですか」と聞くと「食料と飲料水は皆さんのご支援のおかげで充実してきています。避難している人たちの一番の困りごと

必要だと思えます。一番つれづれだったのは、鹿児島県の畳工業組合から、畳の提供があって、益城中央小学校の避難所に畳120枚が搬入できたことで、硬く冷たい体育館で避難していた人たちが安心して顔を洗った時でした。一番困っていることは、この地震に

て取り押さえ、110番通報した。駆けつけた警員が飲酒検査を実施。基準を超える値が検出されたため逮捕された。男は出勤途中だった。調へに「自宅



熊本地震で被害を受けた益城町の様子



倒壊家屋の後処理費用の補助など 行政に対する注文増加 震災に関わった行政マンの人的応援を

用を補助してもらえないのかなと行政に対する注文が増えています。早く国に救済指定をしていただき、県の方針、町の方針を決めることが

「今、一番困っていることはなんですか」と聞くと「食料と飲料水は皆さんのご支援のおかげで充実してきています。避難している人たちの一番の困りごと

必要だと思えます。一番つれづれだったのは、鹿児島県の畳工業組合から、畳の提供があって、益城中央小学校の避難所に畳120枚が搬入できたことで、硬く冷たい体育館で避難していた人たちが安心して顔を洗った時でした。一番困っていることは、この地震に

て取り押さえ、110番通報した。駆けつけた警員が飲酒検査を実施。基準を超える値が検出されたため逮捕された。男は出勤途中だった。調へに「自宅